

第3学年国語科学習指導案

令和3年7月15日木曜日 第5校時

四万十町立大正中学校 第3学年 生徒数10名

指導者 平林 香里 印

1 単元名（題材名、主題名）

観光ポスターの批評文を書こう

～各県の観光ポスターについて適切に資料等を引用し、自分の考えが分かりやすく伝わる批評文にする～

2 単元について

○単元観

本教材では、これまでの既習事項を踏まえ批評の対象について、観察・分析したり、比較したりして、対象を多面的に捉えながらよりよい判断を下し、論の進め方を考え、資料を参考にしたり、引用したりして、説得力のある批評文を書くこととし、観光ポスターの批評文を書くことを言語活動として設定している。言語活動を設定する際には、社会科の地理的分野や歴史的分野の学習の中で身につけた力を活用したり、美術科の絵画等の批評などの学習を活用したりするなど、他教科との関連も意識した。批評文とは、対象とする事柄を比較、分析しながら、そのものの特性や価値などについて、根拠をもってどのような価値があるのか、どのようにすぐれているのかを論じたり評価したりした文章なので、資料などを用いてその根拠をより確かなものにしながら自身の考えを分かりやすく述べられるようにさせたい。

本単元では、学習指導要領「書くこと」B(1)ウ「表現の仕方を考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫すること」また、「書くこと」B(1)エ「目的や意図に応じた表現になっているかなどを確かめて、文章全体を整えること」に対応している。考えの形成、記述については、全学年を通して自分の考えが伝わる文章になるように工夫することが示されている。1年次の「根拠を明確にして書こう」では、説得力のある根拠を考え、根拠を明確に示して自分の意見を書くことを行った。また、2年次の「根拠を吟味して書こう」では、自分の考えが伝わる文章になるよう、根拠の適切さについて吟味し、文章の構成を工夫し、分かりやすく説得力のある意見文を書くことを学習している。3年生では、これらの既習事項を活用して各県の観光ポスターについて表現を工夫したり資料を引用したりするなどして、自分の考えの根拠をより明確なものとした批評文を書き、新聞に投書することを単元のゴールとした。

○生徒観

本学級の生徒は、高知県学力定着状況調査においても「話すこと・聞くこと」の領域においては県平均を大きく上回っており、自分の思いや考えを話すことは得意である。考えを説明したり意見を出し合ったりする活動では、積極的に自分の意見を述べることができる。しかしながら、「書くこと」の領域については県平均を5ポイント下回っている。書くことへの抵抗感は少ないが、自身の考えの根拠が主観的なものであることが多く、その根拠となる事実や体験を踏まえて書く力が不十分である。物事を多面的に捉えることができず、視点を変えて物事を見たり、他者の考えを聴き、自身の考えの参考にしたり、自身の考えを広げたりして書くことが苦手な生徒が多い。また、文章を書く際に書き言葉を意識することが少なく、語彙も乏しいことから稚拙な表現にとどまってしまう。

本単元の複数の対象を比較・分析し、様々な角度から捉え、情報を吟味し自身の根拠を説得力のあるものにしていく活動を通して、相手（読み手）を意識した文章を書くことができるようにしていきたい。

○指導観

本教材では、単元のゴールとして「批評文を新聞へ投書する」と設定している。投書とは、公の場に自分の言葉で考えを投げかける文書であり、不特定多数の読み手を意識し、簡潔に自分の考えを述べる必要がある。総合的な学習の時間には、地元企業からの課題に対して中学生の視点で商品を提案したり、地域マップを作成したりする活動をしていることから、投書のテーマを「高知の観光を考える」とすることとした。

まずは、生徒にとって身近な四万十町で行われる「米こめフェスタ」のポスターを観察・分析の練習として取り上げて批評文を書く。そして、応用課題として「高知県・富山県・群馬県」の3県の観光ポスターを比較し、批評文を書く活動を設定している。我々が日常的に触れる情報の多くは文字（文章）と画像（映像）との組み合わせによってできているため、それと同種のポスターを素材とし、日常生活に有用な学力を育成することも意図とした。なぜそのポスターが優れているのかを説明する際に、観察・分析して考えたことを具体的な事例を用いて説明させたい。読み手を意識し、読み手を納得させるためには、主観ではなく客観的な事実を踏まえた根拠が必要であり、対象を一面的に見るのではなく、多面的に捉えることが必要であることにも気づかせたい。そのために、複数の観点から特に自分が重要であるものを決めたうえで判断を下し、自分の判断の根拠を具体的に示すことに注力させたい。根拠としては、ふさわしい資料の引用等を行うことで、考えや主張に説得力が生まれてくることを実感させたい。また、「おもしろい」「良い」「分かりやすい」などの具体を欠く言葉ではなく、今まで身に付けてきた多様な語句を振り返りつつ、批評文にふさわしい語を使いながら自身の考えを相手に分かりやすく伝えるように表現するものとした。

これらの批評文を書く学習を生かし、表現の仕方を意識して、投書として自分の考えを述べさせたい。義務教育最終学年として、自分達の住んでいる四万十町だけでなく更に視野を広げ、高知県をより具体的に知り、高知県をより活性化させていくためにはどうすれば良いかなどを考え、高知新聞の読者に提案したい。

3 単元の目標

- 理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、慣用句などについて理解を深め、話や文章の中で使うとともに、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。【(1)イ】
- 表現の仕方を考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫することができる。【B(1)ウ】
- 目的や意図に応じた表現になっているかなどを確かめて、文章全体を整えることができる。【B(1)エ】
- 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通じて自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。【学びに向かう力、人間性等】

〈本単元における言語活動〉

- ・関心のある事柄について批評するなど、自分の考えを書く。【B(2)ア】

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 【(1)イ】	①「書くこと」において、表現の仕方を考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫している。【B(1)ウ】 ②「書くこと」において、目的や意図に応じた表現になっているかなどを確かめて、文章全体を整えている。【B(1)エ】	①粘り強く、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように表現の仕方を工夫し、学習課題に沿って文章を書こうとしている。

5 指導と評価の計画 (全6時間)

時数	主たる学習活動	評価の内容	評価方法
1	○「投書」とはどのようなものかを理解し、単元のゴールをイメージする。 ○「教科書の学びの扉」を活用し、物事を色々な観点から捉える練習をする。 ○批評文の書き方の手順について確認し、米こめフェスタのポスターを分析するためのポイントを出し、ポスターを観察する。		
2	○前時で観察・分析したことをもとに、どのポスターが良いか自身の観点から判断をする。 ○構成メモを作成し、批評文を書く。	[知識・技能] ①	ワークシート
3	○書いたものを互いに読み合い評価し合う。 ○学んだことを生かし、各県の観光ポスターを比較・分析する観点を確認し、判断を下す。		
4	○前時の判断の根拠を参考資料や各県の観光キャンペーンサイトなどを引用しながら挙げ、批評文を書く。		
5	○前時で作成した批評文を読み合い、アドバイスをし合う。 ○推敲したものを再度互いに読み合う。 ○他者の批評文から他者のものの見方や参考になった文章の書き方、新たに気づいたことを振り返る。	[思考・判断・表現] ① [主体的に学習に取り組む態度] ①	推敲し完成した批評文 振り返り
6	○高知新聞へ「投書する」ことを意識し、自身の考えを読み手に伝えるためにはどのような表現がよいか等を意識して投書にふさわしい文章にしていく。 ○書いた投書を高知新聞の読者の視点で読み合う。	[思考・判断・表現] ② [主体的に学習に取り組む態度] ①	投書 振り返り

【単元の流れ】

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
1	<p>・学習のめあてや単元のゴールイメージ（「高知県の観光を考える」というテーマで投書を書く）を持ち、学習の見通しを持つ。 ・「投書」とはどのようなものか、「投書」にふさわしい文章とはどのようなものかを確認する。（批評文との違いを確認する）</p> <p>美術科で物事を多面的・多角的に捉える練習をする。複数のポイントで考える練習と二つのものを比較して観点を出す等。（ポスター鑑賞等）</p> <p>・批評文の特徴について確認する。 ・ポスターの分析を行う際のポイントを確認し、対象（米コメフェスタポスター）を観察する練習を行う。3つのポスターの特徴をポイントごとに分析して表にまとめる。</p>	<p>・多面的に捉えることが本単元のゴール（投書）にどのように繋がるかを意識させる。</p> <p>・視野を広げて考えること、他の意見から学ぼうとする姿勢が大切であることに気づかせる。</p> <p>・1, 2年生で根拠を明確にして書く活動をしてきたこと、根拠を明確にして書くとはどういったことかを想起させる。</p> <p>・批評文と投書の違いを確認させるために、実際の投書と批評文（教科書の完成例）の例を示し、違いに気づかせ、それぞれの特徴に線を引かせながら確認させる。</p> <p>・主観ではなく、客観的な視点で捉えたことを根拠として示すことが必要であることを理解させる。</p> <p>・観察、分析する際のポイントを考えさせる。（ポスターの目的、対象、デザイン、キャッチコピー）</p> <p>・教科書巻末の「言葉を広げよう」の「批評する言葉」などを参考にさせながら批評文にふさわしい語句を考えさせる。（批評・感想に関する語句表を最後の時間まで活用する）</p>	
2	<p>・前時で観察、分析したことから、自身の観点（重要であると考えるもの）を基に判断を下す練習を行う。判断を下す際には、そのように判断した根拠を、資料等を引用しながら明確に示す。 ※資料は四万十町のHPや土佐の豊穰祭の資料、「わたしたちのまち四万十町」を活用する。 ・批評文の構成を考え構成メモを作成する。 ・構成メモをペアで交換し、対象について批評している表現に線を引く。線を引いた表現についてどのような効果があるかを全体で共有する。 ・構成メモをもとに米こめフェスタの批評文を400字程度で書く。</p>	<p>・観察、分析し、特徴をまとめたワークシートや事実（資料）を基にどのポスターが良いか自身の観点（重要であると考えるもの）で判断させる。</p> <p>・どのような構成で書くと読み手に自分の考えが伝わるかを考えさせながら批評文の構成メモを作成させる。（頭括型、尾括型、双括型）</p> <p>・構成メモをペアで読み合い、対象について批評している表現に線を引かせる。そのような表現を使うことでどのような良さ（効果）があるかを考えさせる。</p> <p>・構成メモを基に400字程度の批評文を書かせる。 ※Cの生徒→文字数を300字程度とし、型を意識して書かせるようにする。文章の型としては、頭括型で書かせる。</p>	<p>[知識・技能] ① <u>ワークシート</u> 自身の批評文やペアの批評文から批評文にふさわしい語句を「批評・感想に関する語句表」のワークシートに分類し、書き込んでいるかを確認する。</p>
3	<p>・前時で書いた批評文を互いに読み合いアドバイスし合う。</p>	<p>・主張に対する根拠が客観的な事実（参考資料）に基づいたものであるかなどを互いに確認させる。どのような視点で批評文を読んでいったらよいかを出させる。また、確認した視点を基に、他者の批評文を読みアドバイスさせる。</p>	

(例) 【アドバイスの視点】①

- 自分の考え（判断）と引用した参考資料（根拠）とがきちんとつながっているか。
- 考えが客観的で多面的なものになっているか。
- 批評文にふさわしい表現が使われているか。



	<ul style="list-style-type: none"> ・学んだことを生かして高知県、群馬県、富山県の観光ポスターを観察・分析し、参考資料を引用しながら批評文を書くための準備をする。 ・ポスターを批評するポイントを確認し、ポスターの観点（自分が重要であると考ええるもの）を自分で設定し判断を下す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・よりよい批評文にするためのアドバイスや参考にしたいことなどを付箋に書かせる。 ・誤字脱字のチェックではなく、批評文に必要なことは何かを再度確認させながらアドバイスをさせる。 ・前時の学び（米こめフェスタの批評文）を振り返り、観光ポスターは何を目的に、誰に対して作成されているのか、ポスターには何が必要かなどを考えさせて、比較するポイントを考えさせる。 <div data-bbox="639 551 1034 669" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【ポスターを批評するポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャッチコピー ・写真、イラスト ・構図（デザイン） </div> <ul style="list-style-type: none"> ・3枚のポスターから、自分の観点を基に一枚を選ばせる。 	
社会科	<p>※タブレットを活用し、3県のポスターに関連する情報を観光サイトや県のHPなどから、それぞれのポイントに従って情報を収集する。3つの資料を準備させる。1つは全員が共通、残りの2つはそれぞれが自分の観点で資料を探す。 (出典を必ず記入すること確認させる)</p>		
4	<ul style="list-style-type: none"> ・前時で下した判断と根拠となる情報（社会科で収集したもの）を確認し、ポスターと照らし合わせながら批評文を書く。 ・情報をさらに収集したいときはタブレットを活用する。 ・書いた批評文をペアで交換し、資料を適切に引用できているかなどを互いにアドバイスし合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習を想起させる。社会科での調べ学習を確認させる。 ・調べたことや参考資料を基に批評文を書く。 ・書いた批評文をペアで交換し、アドバイスさせる。 ・アドバイスや新たな気づきを基に、自身の判断の根拠として適切かを確認させる。 (批評文と資料とを照らし合わせて) <div data-bbox="624 1173 1307 1267" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(例) 【アドバイスの視点】②</p> <ul style="list-style-type: none"> ●自分の考えにつながる資料を適切に引用できているか。 ●資料は信頼性があるものを選択しているか。 </div>	<div data-bbox="1169 898 1552 1104" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>3時間目から5時間目を通してアドバイスの視点を考え視点をはっきりさせていく。</p> </div>

<p>5 本時</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時で書いた批評文を互いに読み合い、アドバイスをを行う。 ・友達からのアドバイスを参考に推敲する。 ・推敲し、作成した批評文を互いに読み合い、評価の観点を基に評価する。 ・他者の批評文から他者のものの見方や参考になった文章の書き方、新たに気づいたことを振り返る。また、次時の投書作成に向けて、本時の学びを生かしてどのような投書を書きたいかを意識させながら振り返りを書かせる。(投書を書く際に意識していきたいこと、気をつけたいことなど) 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで出てきたアドバイスを基に批評文を推敲し、より良い批評文にしていく。読み合う際には、読み手を意識した文章になっているか、考えが伝わりやすいか等を意識して読ませる。(付箋にコメントを書いて貼る) ・友達からの付箋を参考に批評文を完成させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【アドバイスの視点】③</p> <ul style="list-style-type: none"> ●自身の考え(判断)と引用した参考資料(根拠)とがきちんとつながっているか。 ●考えは客観的で多面的なものになっているか。 ●資料は信頼性があるものを選択しているか。 ●批評文にふさわしい表現が使われているか。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・より良い批評文とはどのようなものかを考えさせ、他者からのアドバイスや他者の批評文から参考になったことを振り返りに書かせる。 ・批判的な評価で終わらず、肯定的な評価もさせる。良い所、参考になったところなど、互いに認め合えるような評価をさせる。 	<p>[思考・判断・表現]</p> <p>① <u>批評文</u></p> <p>これまでのアドバイスを基に、自分の考えと引用した資料がきちんとつながっているか、批評・感想に関する語句表の語句を活用し、考えが分かりやすく伝わる表現を意識して批評文を推敲できているかを確認する。</p> <p>[主体的に学習に取り組む態度] ①</p> <p><u>ワークシート(振り返り)</u></p> <p>より良い批評文にするためにアドバイスの視点等に基づいて推敲した結果、どのように表現の仕方が変わり考えが伝わりやすくなったかを具体的に書いているか確認する。</p>
<p>6</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高知新聞へ「投書する」ことを意識し、自身の考えを読み手に伝えるためにはどのような表現がよいか等を意識して投書にふさわしい文章にしていく。 ・書いた投書を新聞の読者の立場で読み合う。 ・互いに評価しあう。(読み手として高知県の観光を考えることができる内容になっていたか) ・批評文を投書に直していく中で試行錯誤したことと、それをふまえて、今後文章を書く際に意識したいこと、気をつけたいこと、他教科で生かせること等についても振り返りとして書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「投書」について確認し、批評文を投書するためにはどのような文章にしていけばよいかを考えさせる。 ・1時間目の投書とはどのような文章かを再度確認する。 ・高知新聞を読む高知県民(様々な年齢層)に対して、中学生の感性や視点から高知の観光をより活性化させたり、高知の魅力を発信したりするためにはどうすればよいか、またどうしていく必要があるかなどを提案するという意識を持たせる。 ・「高知県の観光を考える」というテーマを確認し、そのテーマに沿って文章を加筆・修正する。 ・できた文章を互いに読み合わせる。その際には、新聞の読者として、高知県の観光について考えられたかどうかで評価させる。 	<p>[思考・判断・表現]</p> <p>② <u>投書</u></p> <p>投書の意味を的確に理解し、目的や意図に応じた表現、文章構成になるように文章を整えているかを確認する。</p> <p>[主体的に学習に取り組む態度] ①</p> <p><u>ワークシート(振り返り)</u></p> <p>批評文を目的や意図に応じた投書に整えるためにどのように試行錯誤したのか、本単元で学んだことを今後の学習の中でどのように生かしたいかを具体的に書いているか確認する。</p>

6 本時の指導

(1) 本時の目標

表現の仕方を考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えが分かりやすく伝わる批評文になるように工夫する。

(2) 本時の評価規準

「書くこと」において、表現の仕方を考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫している。【B (1) ウ】

(3) 準備物

前時に書いた批評文、参考資料、ポスター（掲示用）、付箋、ワークシート

(4) 学習の展開（5時/6時間）

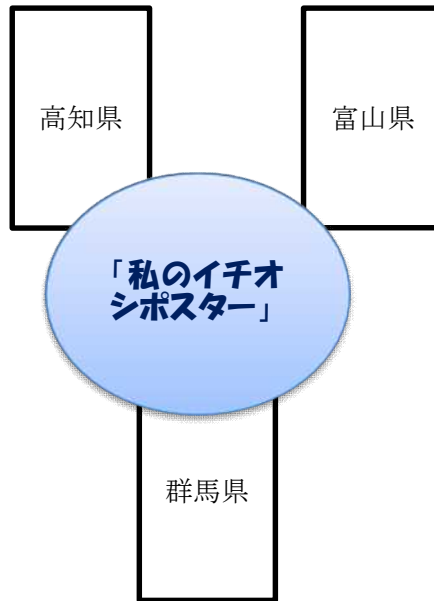
	学習活動	指導上の留意点	評価規準 評価方法
導入 〔5分〕	・前時の学習を確認し、本時のめあてを確認する。	○400字程度の批評文を書いていることを確認させる。	
	<p style="color: red; margin: 0;">めあて：自分の考えが読み手に分かりやすく伝わる批評文にするためにはどのようにすれば良いだろう。</p>		
<p>課題：互いに書いた批評文を読み合い、アドバイスをし合い、よりよい批評文にしていく。</p>			
展開 〔35分〕	・前時で書いた批評文をグループで交換して読み合い、アドバイスをし合う。（グループ）	<p>（例）【アドバイスの視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●自分の考え（判断）が参考資料（根拠）の引用ときちんとつながっているか。 ●自分の考えは客観的で多面的なものになっているか。 ●批評文にふさわしい表現が使われているか。 <p style="text-align: right;">等</p> <p>（互いへのアドバイスは付箋に書かせる）</p>	<p>【思考・判断・表現①】 （批評文）</p> <p>これまでのアドバイスを基に、自分の考えと引用した資料がきちんとつながっているか、批評・感想に関する語句表の語句を活用し、考えが分かりやすく伝わる表現を意識して批評文を推敲できているかを確認する。</p>
	・アドバイスを基に批評文を推敲する。（個人）	・付箋に書かれたアドバイスを確認し、より良い批評文になるようにさせる。自身の判断の根拠として説得力があるのか、不特定多数の人が読んでも分かりやすい構成となっているかを意識させる。	
まとめ 〔10分〕	・本時のまとめをする。めあてを確認し、気づいたことなどを挙げる。	・本時のまとめと振り返りをさせる。本時のめあてを確認し「よりよい批評文にするためにはどうすればよいか」気づいたこと、分かったこと、他者の批評文から他者のものの見方や参考になった文章の書き方などを考えさせる。	<p>[主体的に学習に取り組む態度] ① ワークシート（振り返り）</p> <p>より良い批評文にするためにアドバイスの視点等に基づいて推敲した結果、どのように表現の仕方が変わり、考えが伝わりやすくなったかを具体的に書いているか確認する。</p>
	・出てきたキーワードをもとに自分でまとめを書く。	・生徒から出てきたキーワードを使って生徒自身にまとめを書かせる。	
<p style="color: red; margin: 0;">まとめ：客観的な視点で参考資料や情報を分析し、それらを根拠として使うことで、自分の判断に説得力を持たせることができる。</p>			
		・次時の投書作成に向けて、本時の学びを生かしてどのような投書を書いていきたいかを意識させながら振り返りを書かせる。（投書を書く際に意識したいこと、気をつけたいことなど）	

(5) 板書計画

めあて 自分の考えが読み手に分かりやすく伝わる批評文にするためにはどのようにすれば良いだろう。

課題 互いに書いた批評文を読み合い、アドバイスを出し合ってよりよい批評文にしていく。

- 【アドバイスの視点】(3, 4時間目に出てきたものを掲示)**
- 自身の考えと引用した参考資料(根拠)とがきちんとつながっているか。
 - 自身の考えは客観的で多面的なものになっているか。
 - 批評文にふさわしい表現が使われているか。



【キーワード】

客観的な視点 資料の引用・活用 分析 考えと根拠のつながり
言葉の使い方 表現

まとめ

- 参考資料は自身の考えとつながる部分を適切に引用することで、考えを支える強い根拠となる。
- 複数の対象を多面的に捉えることで、見方や考え方を広げた批評につながる。
- 批評・感想に関する語句表を用いて批評に適した表現を使うことで、読み手に自分の考えを適切に伝えることができる。